

2018 English Journal No. 2



文責：英語科 三上有之

国際理解の日 (EDGREN 高校訪問)



秋晴れの10月18日(木)、英語科1年6組の生徒達は、On Base (基地内)にある Edgren High School を訪問しました。同じ世代同士が、お互いの文化を respect しながら交流することは非常に大切です。まず、Edgren 高校の生徒と沢高の生徒がペアとなり、午前中はその Buddy(ペアの相手)がとっている授業と一緒に行きました。(ご存知のようにアメリカでは、授業の度に生徒が教室を移動します。)

中でも特徴的なのは、Year Book という授業です。生徒が PC でいわゆる日本で言う「卒業アルバム」を作ります。これは正規の授業で、単位も出るとのこと。生徒達は、仲間と相談しながら自主的に様々なイベントを取材し、文章やレイアウトを考えます。そのようなプロセスの中で、自然と主体性が身につくのだと感じました。そして、ランチの後はプレゼンタイムです。沢高生は、グループ毎に日本文化について英語で紹介しました。右の写真は、書道を教えている様子です。



生徒の感想 (アンケートより)

- ・日本と違い、かなり自由で、その中でもきちんと授業が成り立っているのはすごいと思った。
- ・英語を聞き取れなかったのもっと英語力を付けたいと思った。
- ・普通科の人にもこの体験を伝えたい。
- ・食事は口に合わなかったが、異文化を謙虚に受け止めることがおもてなしだと思った。

海外修学旅行 IN SYDNEY



11月30日(金)～12月6日(木)の日程で英語科2年6組34



名は、英語科のメインイベントとも言える海外修学旅行を真夏のシドニーで行いました。12月1日(土)の早朝に到着後すぐにオペラハウス、ハーバーブリッジ等を見学し、次はお楽しみのランチタイム。まずは、フィッシュ&チップスから。これは、イギリス伝統のもので自身魚



とポテトのお料理。オーストラリアがイギリスの植民地だったということを経験し、食文化を通じて理解しました。2日(日)は、各ホームステイ先でホストファミリーとビーチやショッピングへとおもいおもいの素敵な weekend を過ごし、週明けの3日(月)は、St. John Bosco College へ。College とはなっているものの日本の「高校」にあたります。ICT環境が整っていて、生徒が一人1台ノートPCを持っていて、情報の共有やレポートの提出等も全て Google を使っているそう



です。体育の授業では、一緒にダンスもしました。ホットドックのランチをいただいた後は、いよいよはるばる日本から持ってきたものを使って日本文化のプレゼンです。浴衣の着付けを教えたグループもありました。4日(火)は、1850年創立の名門シドニー大学を訪問しました。各グループ毎に担当の大学生の案内で構内を見学しましたが、たまたま当日は卒業式で、世界各地から子供の卒業を祝うために訪れた保護者と芝生の上で記念写真を撮る姿がとても印象的でした。たとえどんなに離れていても親ならこの日だけは欠かせないのでしょうか。



ついに1-6小学校で先生に



12月18日(火)英語科1年6組の生徒は、小学校の英語学習を補助するため市内の小学校を訪問しました。これは、平成27年度に始まり、今年で4年目となります。今回は木崎野小、上久保小、そして三沢小を各10～15人ずつのグループで訪問し、英語で歌を歌ったり、「北風と太陽」を英語で演じる補助をしたのですが、小学生の積極性と演技力の高さに圧倒されました。

アカデミック英語集中講座

年明けの1月22日(火)、英語科2年6組の生徒は、アカデミック英語集中講座で大学レベルの英語を体験しました。今回は、弘前学院大学の Edward Forsythe 先生と八戸学院大学の Gregory Anthony 先生をお迎えし、TOEIC や TOEFL 等の資格試験でスコアアップするコツやインターネットを使った英語習得術などを教えていただきました。1月25日(金)付けのデーリー東北に掲載された北向太一君のコメントを紹介します。「三沢は外国の方が多い。日常で使える英語を身に付けることを意識して取り組んだ。」この積極性は多くの人に見習って欲しいものです。